

小美玉市 ため池 ハザードマップ

東池

この「小美玉市ため池ハザードマップ」は、茨城県が東池を対象として行った氾濫解析結果をもとに、現地踏査を実施し最大浸水深、氾濫水が到達する時間の情報及び市民の皆様が避難するために必要な情報をまとめたものです。

自分の家がため池の浸水想定区域に入っていないからと言って、必ずしも安全であるとは限りません。ため池からの氾濫に備え、日ごろから、このハザードマップを活用し、家族や地域で話しあい、一人一人が避難方法や避難場所を確認しましょう。

ため池決壊の要因

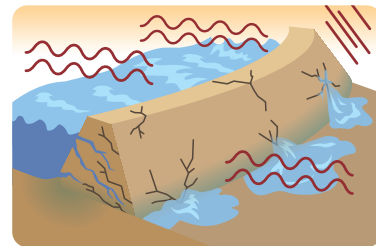
大雨のとき

台風や集中豪雨によって、ため池の水位が上昇すると、堤防に浸み込む水の量が増えて、亀裂や漏水が発生し、ため池の決壊の危険性が高まります。また、流木などがため池の洪水吐を塞いでしまうと、さらに水位が上昇し、堤防から越水してしまいます。堤防を乗り越えた水の力により堤防が侵食され、決壊に至る危険性がさらに増加します。



地震のとき

地震が発生すると、堤防は異常な力を受けて亀裂や沈下が発生します。地震によって堤防の強度も低下しているため、水圧に耐えきれずに決壊することがあります。地震直後に決壊しなくても、堤防が損傷している場合には、その後の余震で決壊することもあり得るので注意が必要です。



いざ!というときに備えて

避難場所と避難経路の確認をしておきましょう

水は高いところから低いところに流れます。道路は流れの強い水の通り道になります。大雨などのときにどう避難するか、地形を見て確認しておきましょう。



非常持ち出し品を常備しましょう

いつでも避難できるように非常持ち出し品を準備しておきましょう。



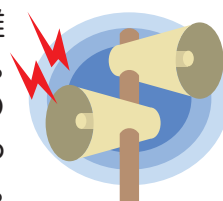
正確な情報収集と自主的な避難を心がけましょう

テレビやラジオなどで正確な情報を収集しましょう。危険を感じたら、市・警察・消防署等に連絡するとともに、自主的に避難しましょう。



避難の呼びかけに注意を払いましょう

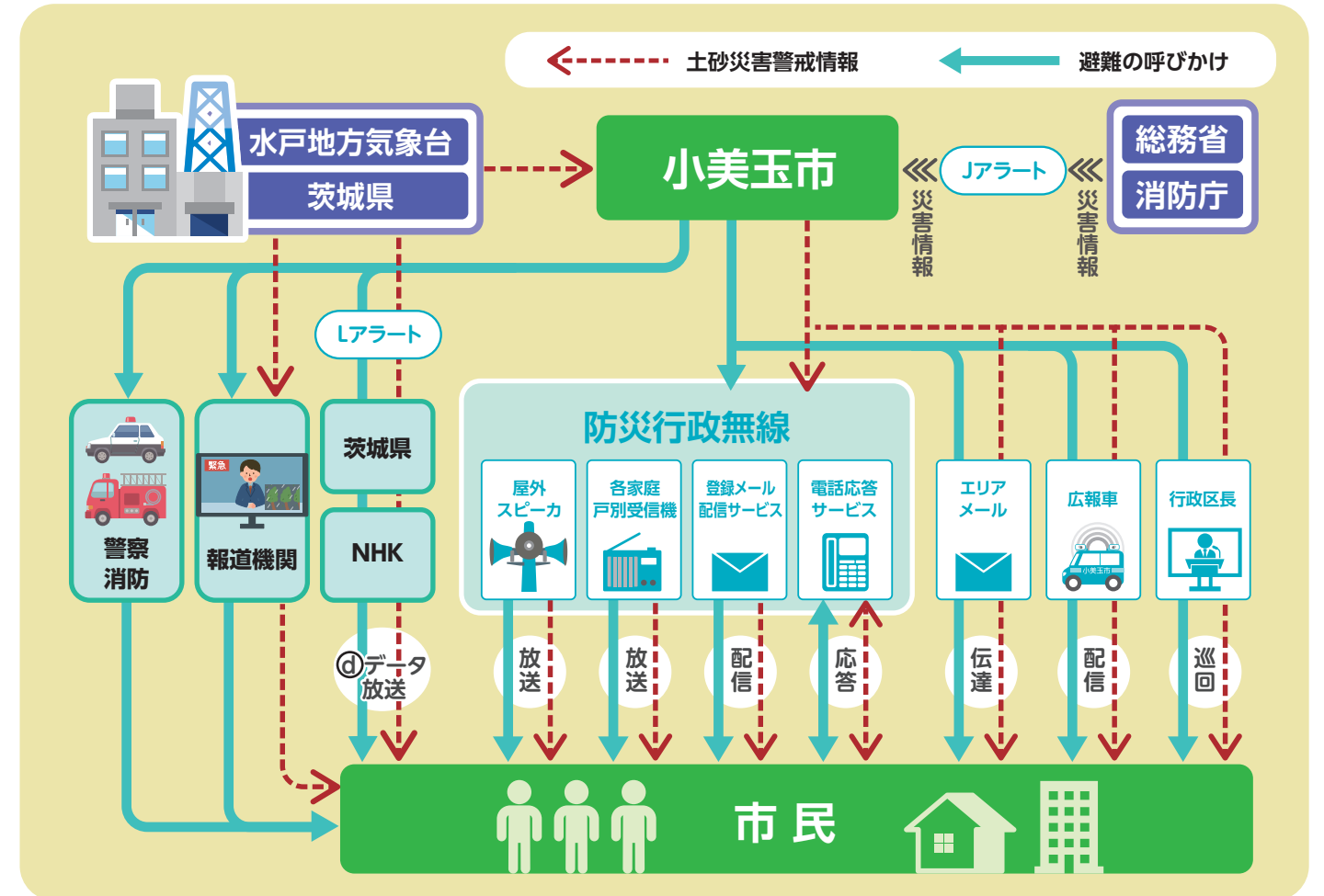
危険が迫ったときには、市から避難の呼びかけをすることがあります。テレビやラジオ、サイレン音などの情報に十分注意し、呼びかけがあった場合は、速やかに避難して下さい。



情報の伝達

大雨や洪水に関する避難の呼びかけは、報道機関を通じて放送するほか、広報車、防災行政無線などを通じて伝達します。

大雨のときは、これらの呼びかけに注意するほか、テレビ・ラジオ放送などから自主的に情報収集し避難の参考にしてください。



避難するときに注意すること

ため池決壊以外の災害も意識する

ため池が決壊している状況では、周辺で下図のような災害も発生しているおそれがあることに注意して避難してください。



危険な場所は避ける

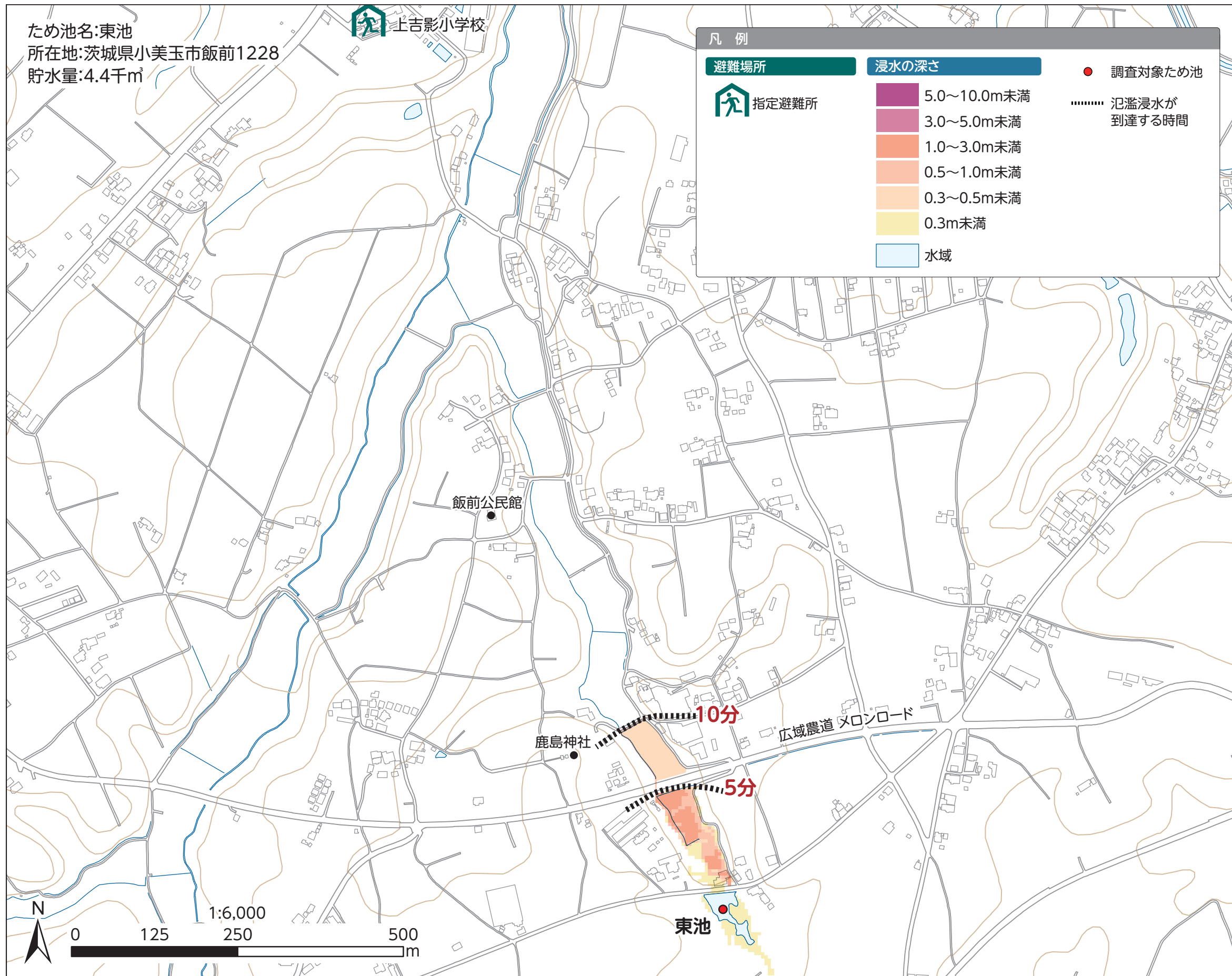
避難時は安全な広い道を選ぶようにし、できるだけ狭い道や塀ぎわ・河川の水路の近くなどは避けてください。

浸水し始めたら無理をしない

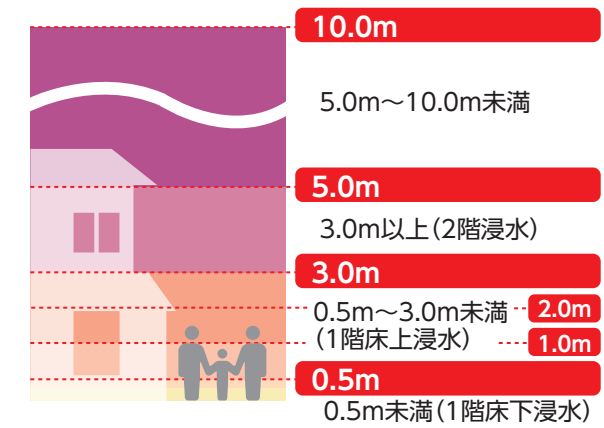
歩ける水深の目安は、ひざ位までです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理な移動は避けてください。

屋内安全確保

浸水が速く逃げ遅れたときは、無理をせず自宅の2階や近くの頑丈な高い建物に避難してください。



浸水深の目安



浸水の目安	流速との関係
5.0m 2階の軒下まで浸水する程度	避難不可能
3.0m 2階の床下まで浸水する程度	
2.0m 1階の軒下まで浸水する程度	
1.0m 大人の腰までつかう程度	流速が0.5m/秒を超えると避難不可能
0.5m 大人のひざまでつかう程度	流速が1.5m/秒を超えると避難不可能

防災メモの使い方

いざというときに備えて、避難先や連絡先などを整理しておきましょう。

氏名	
住所	
電話	
目標物	

家族や親戚などの連絡先	
名前	勤務先 学校等
電話	備考
名前	勤務先 学校等
電話	備考

避難所	避難所名
	電話番号
	家族が離ればなれになったときの集合場所
	電話番号